

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	西部農林振興センター	氏名	森山 沙希子
派遣先 団体名	馬路まちづくりセンター		
<p>① 研修の日時</p> <p>平成24年7月24日(火) 26日(木)～29日(日) 8:30～17:00 8月15日(水) 8:00～16:00</p> <p>② 研修の内容</p> <p>1日目(7/24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○馬路ウォーキング観光コース実体験 (鞆ヶ浦～展望台～海岸沿い) ○馬路ボランティアガイドの研修に参加 (「鰻絵」講座、サテライト施設「鞆館」見学) <p>2日目(7/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの子ども受け入れ (人権学習の一環で紙芝居の読み聞かせなど) ○関係機関へ鞆ヶ浦祭りのポスター配り (大田市役所、サンドミュージアム、商店など) <p>3日目(7/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鞆ヶ浦 遊覧船コース見学 (8/15の鞆の浦祭りのコースを回らせてもらう) ○夏休みの子ども受け入れ (持参したおもちゃなどで子ども達と交流) ○馬路アンテナショップ準備 (商品の袋詰め、ポップ作り、のぼり組立など 地元の商品出品者と一緒に作業) <p>4・5日目(7/28・29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○琴ヶ浜海水浴場で馬路アンテナショップ (準備、ボランティアガイド体験、片付け) <p>6日目(8/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鞆の浦祭り・鞆の浦でアンテナショップ 			
		 <p style="text-align: center;">ボランティアガイド研修</p>	
		 <p style="text-align: center;">子ども達への読み聞かせ</p>	
		 <p style="text-align: center;">アンテナショップ</p>	

(石見銀山5周年記念イベントの一環として開催された鞆ヶ浦祭りに、アンテナショップを出店。準備や、会場の片付け等を手伝う。)

③ 研修の感想

大田市仁摩町馬路地区は、人口約650人の海辺の小さなまちです。高齢化率は51%と高く、地場産業が乏しい等の理由から、近年過疎が急速に進んでいます。しかしながら、石見銀山の輸出港である鞆ヶ浦を有し、鳴り砂で有名な琴ヶ浜などの観光資源に恵まれています。



馬路まちづくりセンターでは、平成23年度から市の地域力醸成プログラム事業として、アンテナショップとボランティアガイドを始められました。2年目の今年は、昨年よりもアンテナショップへの商品提供者が増えたそうです。

7月28, 29日のアンテナショップは、住民の方々が手芸品、海産物、野菜などそれぞれの得意分野を持ち寄って出店されました。お客さんよりも売り子の方が多い状況でしたが、テントの中はにぎわっていて、みなさんの笑顔が印象的でした。独居老人が増加する一方で、近隣住民同士の交流や、高齢者の生きがいがづくりの場となるアンテナショップは、大きな可能性を持っていると感じました。

初日に馬路の町を歩き、空き家が非常に多いことに気づきましたが、8月15日にお邪魔した時は、帰省客や若者が集まって地元の祭りを盛り上げていました。アンテナショップやボランティアガイドは、まちづくりセンターの職員3名（オーバー50歳）を中心に活動されています。

職員さんの言葉・・・「自分が中心になってやっている間だけ盛り上がっても意味がない。今後更に過疎が進んだ時に、馬路地区の住民だけでもやっていける体制を今作っておく必要がある。そのためには、主導をまちづくりセンターが握るのではなく、徐々に住民に移していくことが重要。」

後に独立させるための基盤づくりのためには、若者を取り込んでいく必要があります。地元の活気ある姿を若者に見せたり、地域の魅力を大人が子供たちに伝えたりすることで、若者が地元を支えようとするのではないかと、今回の研修で感じました。

地元の方と丸3日間海辺で過ごし、昔の馬路の様子や馬路のいいところなど貴重な話を聞くことができました。何よりも海の美しさは格別で、また来たいなと思いました。海水浴や観光でじっくり地元の方と交流することは難しいですが、地元を愛するアンテナショップやボランティアガイドの方々と短時間でも交流できれば、馬路の魅力をより感じられると思います。始まったばかりのこの事業を、ぜひ続けていただきたいと思いました。

